

リウマチ・膠原病内科

a. 体制

(1) リウマチ・膠原病内科の目標：

我々の科では個々の患者さんの直面する問題を真剣に取り上げ、分析し、十分な説明と同意のもとでエビデンスに基づいた最善の治療を行うことを理念とする。

リウマチ膠原病は同じ診断名でも患者さんひとりひとりで病気の活動後が違い、侵される臓器の種類およびその障害の程度が違います。また、患者さんの社会的立場も違います。患者さんひとりひとりに対応したオーダーメイド医療を目指す。患者さんのよきパートナーとなれるかが重要です。信頼できるパートナーとなれるよう努力します。「患者さんに問題点を見つけ、それを解決するために研究心をもって活動する」という原点のもと、臨床研究を実行する。

(2) リウマチ・膠原病内科の方針および展望：

地域の先生方と連携を密として、大阪北地域のリウマチ膠原病医療の核となれるよう努力する。これまで同様、京都大学臨床免疫学教室との臨床検討会および臨床研究を推進する。

患者さんひとりひとりに対応したオーダーメイド医療を目指す。特に、新しい治療法の個人適応には充分のエビデンスの検討とインフォームドコンセントを得ることが前提です。

(3) リウマチ・膠原病内科の対象疾患

関節リウマチ/悪性関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、多発性筋炎・皮膚筋炎、強皮症、混合性結合組織病、血管炎症候群（結節性多発動脈炎、顕微鏡的多発動脈炎、多発血管炎性肉芽腫症、好酸球性多発血管炎性肉芽腫症、高安動脈炎、巨細胞性動脈炎など）、ベーチェット病、シェーグレン症候群、成人スチル病、リウマチ性多発筋痛症、などを対象としている。

(4) 教育

当院は日本リウマチ学会教育施設として認定されている。井村および高橋、中島、船曳は日本リウマチ学会専門医・指導医であり、日常の診療、定期的なカンファレンスを通じて研修医、学生の教育を行っている。井村は京都大学医学部臨床準教授であり、京都大学より教育研修を受け入れている。

(5) リウマチ膠原病教室の開催

2006年よりリウマチ膠原病教室を開催し、リウマチ膠原病疾患およびその治療に関

する基礎的および最新の情報を患者さんに伝える機会を設けている。残念ながら2023年度は前年に引き続き新型コロナウイルスの影響により開催できなかった。

(6) 院外活動および地域医療との係わり：

大阪バイオリジックフォーラムを2007年より開催し、生物製剤への理解を深める機会を作っている。2023年度は2024年1月20日に第17回大阪バイオリジックフォーラムを開催した。

(7) スタッフ 2023年度

主任部長 井村 嘉孝

医学博士

日本内科学会認定医・総合内科専門医・指導医，日本リウマチ学会専門医・指導医・評議員

専門：臨床免疫学（リウマチ・膠原病疾患）

副部長 高橋 令子

医学博士

日本内科学会認定医，日本リウマチ学会専門医・指導医・評議員，日本臨床免疫学会評議員

専門：臨床免疫学（リウマチ・膠原病疾患）

副部長 中島 俊樹

医学博士

日本内科学会認定医・総合内科専門医，日本リウマチ学会専門医・指導医・登録ソノグラファー

専門：臨床免疫学（リウマチ・膠原病疾患）

副部長 船曳 正英

医学博士

日本内科学会認定医，日本リウマチ学会専門医・指導医，日本アレルギー学会専門医，日本化学療法学会抗菌化学療法認定医

専門：臨床免疫学（リウマチ・膠原病疾患）

医員 麥谷 道生

専門：臨床免疫学（リウマチ・膠原病疾患）

レジデント 岩阪 晋吾

専門：臨床免疫学（リウマチ・膠原病疾患）

レジデント 木下 慶一郎（天理よろづ相談所病院より連携研修として4月～9月所属）

専門：臨床免疫学（リウマチ・膠原病疾患）

レジデント 田村 汐里

専門：臨床免疫学（リウマチ・膠原病疾患）

b. 診療実績

（１）外来診療体制（2023年度）

当科の外来は予約診と初診・当日診の2診療制である。受診者数は一日約64名であった。

（２）外来診療統計（2023年4月1日より2024年3月31日）

外来受診者数（のべ数）15,697 名、月平均 1,308 名

初診者数 1,013 名、月平均 84 名

（３）入院診療実績（2023年4月1日より2024年3月31日）

入院は主として全身性エリテマトーデス、関節リウマチをはじめとする膠原病に対して治療を行い、2022年度入院患者数は 390 名（他科からの転入含む）、平均在院日数 15.6 日

2022年度の主な入院は：

関節リウマチ 48名、全身性エリテマトーデス 43名、多発性筋炎・皮膚筋炎 37 名、強皮症 39名、混合性結合組織病 4名、血管炎症候群 88名、シェーグレン症候群 8名、抗リン脂質抗体症候群4名、ベーチェット病 10名、リウマチ性多発筋痛症 20名、成人スチル病 11名、脊椎関節炎 3名、結晶誘発性関節症 1名、IgG4関連疾患 7名、など。

c. 研究実績

【学会】

- 1 笹井 恒雄、中嶋 蘭、辻 英輝、中島 俊樹、井村 嘉孝、吉田 雄介、平田 信太郎、三森 経世、森信 暁雄 抗 MDA5 抗体陽性皮膚筋炎合併間質性肺炎における長期予後と寛解維持期の治療継続に関する検討 多施設共同臨床試験の長期 follow-up と単施設後向き研究との包括的検討 第 120 回日本内科学会講演会 2023/4/14-16(東京/Web 参加)

- 2 山田 麻綾、中島 俊樹、船曳 正英、高橋 令子、井村 嘉孝 抗MDA5抗体陽性皮膚筋炎の治療中にCytomegalovirus網膜炎を発症した一例 第67回日本リウマチ学会総会・学術集会 2024/4/24-26(福岡)
- 3 山田 麻綾、船曳 正英、中島 俊樹、高橋 令子、井村 嘉孝 骨髄異形成症候群の経過中にBehcet病様症状、高安動脈炎をきたした一例 第67回日本リウマチ学会総会・学術集会 2024/4/24-26(福岡)
- 4 岩阪 晋吾、高橋 令子、中島 俊樹、船曳 正英、麥谷 道生、山田 麻綾、井村 嘉孝 多発性筋炎・皮膚筋炎7:症例から学ぶ 皮疹の後に抗TIF- γ 抗体陽転化・サルコイドーシスおよび筋力低下を認めた皮膚筋炎の症例 第67回日本リウマチ学会総会・学術集会 2024/4/24-26(福岡)
- 5 麥谷 道生、船曳 正英、大橋 倫子、中島 俊樹、高橋 令子、井村 嘉孝 難治性病態への挑戦 成人発症のphalangeal microgeodic diseaseに対してジルチアゼムが奏功した一例 第67回日本リウマチ学会総会・学術集会 2024/4/24-26(福岡)
- 6 岡部 康教、中島 俊樹、麥谷 道生、船曳 正英、高橋 令子、井村 嘉孝 大型血管炎の臨床管理 高安動脈炎における聴覚障害に対して高用量ステロイド療法により耳小骨周囲の陰影が改善した一例 第67回日本リウマチ学会総会・学術集会 2024/4/24-26(福岡)
- 7 高橋 令子、井村 嘉孝 SOCS1の発現異常とSLE病態の関係の解明 第51回日本臨床免疫学会総会 2023/10/5-7(東京)

【論文】

(原著論文)

- 1 Sasai T, Nakashima R*, ..., Nakajima T, Imura Y, ..., Morinobu A. Long-Term Prognosis of Antimelanoma Differentiation-Associated Gene 5-Positive Dermatomyositis With Interstitial Lung Disease. *J Rheumatol*. 2023 Nov;50(11):1454-1461. (査読有り)
- 2 Watanabe T, Taniguchi M, Ogura S, Asou M, Takayanagi S, Sokai Y, Tsuji Y, Mori KP, Endo T, Nakajima T, Imura Y, Tsukamoto T*. Effectiveness and safety of plasma exchange for anti-MDA5 antibody-positive clinically amyopathic dermatomyositis with rapidly progressive interstitial lung disease refractory to intensive immune suppression therapy: A case series. *Ther Apher Dial*. 2024 Jun;28(3):432-441. (査読有り)

【研究】

- 1 抗 MDA5 陽性間質性肺炎合併皮膚筋炎に対する 3 剤併用寛解導入治療レジメンの有効性と安全性についての長期観察研究
--- 多施設共同研究
(井村嘉孝)
- 2 全身性エリテマトーデスにおける SOCS1 の役割の解明と治療への応用
(科学研究費助成事業 2018-2023 年度 基盤研究(C)) (高橋令子)
- 3 ラパマイシンによる全身性エリテマトーデスの病態制御のメカニズムの解明
(高橋令子)
- 4 病気再燃防止を目的とした全身性エリテマトーデス患者の臨床像に関する観察研究
(高橋令子)
- 5 関節リウマチを対象とした日常診療下におけるサリルマブの前向き観察研究
(PROFILE-J)
--- 多施設共同研究
(井村嘉孝)
- 6 メトトレキサート (MTX) 関連リンパ増殖性疾患の病態解明のための多施設共同研究
--- 多施設共同研究
(井村嘉孝)
- 7 メトトレキサート (MTX) 関連リンパ増殖性疾患発症予測因子の同定
--- 多施設共同研究
(井村嘉孝)
- 8 リウマチ性疾患治療中に生じた COVID-19 感染症に関する研究
--- 多施設共同研究
(井村嘉孝)
- 9 日本における関節リウマチ患者の生物学的製剤効果不十分例に対するペフィシチニブへの切り替え効果を調査する後ろ向きチャートレビュー研究
--- 多施設共同研究
(井村嘉孝)
- 10 キャッスルマン病、TAFRO 症候群、類縁疾患の診療ガイドラインの策定や更なる改良に向けた国際的な総意形成を踏まえた調査研究
--- 多施設共同研究
(高橋令子)
- 11 血管炎症候群における疾患特異的マーカーの検出：抗血管内皮細胞抗体の対応抗原からのアプローチ

--- 多施設共同研究

(高橋令子)

- 1 2 全身性エリテマトーデス (SLE) 患者における感染リスクの探索
(中島俊樹)
- 1 3 全身性エリテマトーデス患者における制御性 T 細胞の異常の解明
(高橋令子)
- 1 4 全身性エリテマトーデス病態の自己反応性 CD4 陽性 T 細胞の本態
(高橋令子)
- 1 5 免疫制御異常による SOCS1 および SOCS3 両高発現の SLE 病態への関与の解明
(高橋令子)